

もゆる浪漫

山形市立第八中学校たより
第5号 校長 長沼政直
令和6年10月16日 発行

市中学校新人体育大会 ～男子バレーボール 優勝～

9月28日・29日、第77回山形市中学校新人体育大会が開催されました。部活動の主体が下級生に引き継がれてから、約3ヶ月になりますが、3年生の思いを受け継いだ1・2年生が日々練習を積み重ねてきた成果を大いに発揮してくれました。

10月19日の県中学校新人大会・南ブロック大会に駒を進めた1団体・2個人の選手には、更なる精進と今後の活躍を大いに期待しています。引き続き皆様からのご声援をお願いいたします。

○バレーボール男子【優勝】→南ブロック大会出場 ○バレーボール女子【ベスト8】

予選リーグ 対 山形九中 ○
対 金井中 ○
決勝リーグ 対 山形四中 ○
対 金井中 ○
対 山形六中 ○

予選リーグ 対 山形一中 ○
予選リーグ 対 山形二中 ●
決勝トーナメント
準々決勝 対 山形六中 ●

○卓球 男子個人 第2位 高橋龍矢 →南ブロック大会出場

○剣道
男子団体
予選リーグ 対 附属中 ●
対 山形五中 ●
対 山形六中 ○

○ソフトボール（一中・三中・八中合同） 予選リーグ 対 山形四中 ● 対 山形七中 ○ 決勝トーナメント 準々決勝 対 蔵王一中 ●

男子個人 入賞なし

女子個人 ベスト16 秋葉花南
→南ブロック大会出場

「スクラム8」見通す力や主体性、花開く ～優勝 赤軍 準優勝 青軍 / 応援賞 青軍～

スクラム8は、行事を通して、生徒たちの資質・能力を高める良い機会です。今年は、これまで以上に生徒が自らの手で作り上げたものとなりました。閉会式での鈴木桜佳さんの言葉から、その思いが伝わってきました。

スクラム8副実行委員長の言葉

鈴木 桜佳

今年のスクラム8は、「Beyond borders ～結んだ絆で勝利をつかめ～」のスローガンのもと、学年や男女の壁をこえるにはどんな競技ができるのか、^①どのようなやり方をすればよいのかを考えるとところから始まりました。放課後に何度も幹部会を設け、よりよい方法を相談し、これまで以上に^②自分たちの手でつくりあげたスクラム8になったと思います。

一週間前からは、スローズン達成に向けてリーダーが中心となり、^③試行錯誤を繰り返して今日まで練習してきました。そして、今日の本番では、その成果を発揮し、両軍白熱した戦いを繰り広げることができました。3年生を中心とした両軍息の合った応援や、学年の^④壁を越えて競技に取り組む姿、^⑤声をかけて軍の士気を高めあう姿、仲間とともに楽しもうとする姿に私はとても感動しました。きっと地域の皆様や保護者の皆様にも感動していただけたのではないかと思います。今日は温かいご声援ありがとうございました。

このスクラム8で結ばれた絆は、生徒会スローガン「結」を達成するための大きな一歩になりました。今まで^⑥あまり関わったことがなかった仲間のことを知ったり、一緒に同じ目標に向かう中で改めて仲間の良さに気づいたりすることもあるでしょう。一人一人の^⑦結びつきが強まったことで、これからの活動がずっと心のこもった深いものになるはずです。「仲間へ」「地域へ」貢献する気持ちを大切に、これからもみんなでよりよい八中を創り上げていきましょう。

非認知能力・見えない学力 ①見通す力 ②自主性 ③粘り強さ ④挑戦する気持ち ⑤コミュニケーション力・優しさ ⑥他者理解 ⑦団結力



八中生の学びの姿 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果から

毎年、年度初めに全国の全ての小学校6年生と中学校3年生を対象に、全国学力・学習状況調査が行われます。この調査には「教科に関する調査」と「質問紙調査」の2つの調査があります。「教科に関する調査」は教科の基礎知識や活用力について、「質問紙調査」は学習意欲や学習方法、学習環境等の状況について調査するものです。今年度の調査結果や概況等の分析が終了しましたので、本校の状況について保護者・地域の皆様にご報告いたします。（調査対象の3学年の保護者には、既に結果を配付しております）なお、調査結果は、あくまで学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを申し添えます。

1 本校の教科に関する調査の結果とその対応について

本校の平均正答率は、国語・数学は国語、数学ともに全国平均を大きく上回るという結果でした。これらの結果を分析し、これから次の点について指導改善に努めて参ります。

- 【国語】・文章と図表の関係に着目させ、文章を批評する観点を持たせること。
 - ・表現技法の種類と効果を覚えるだけでなく、自分の考えを表現するときに活用すること。
- 【数学】・目的に応じた式の変形や、その意味の読み取りから事柄が成り立つ理由を説明すること。
 - ・筋道を立てて考え、証明すること。
 - ・問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだそうとすること。

2 生徒質問紙（学習・生活状況等）の結果から分かったこと

国語と数学の正答率はいずれも県や国の正答率よりも高いものの、授業で学習したことが、今後の生き方に役立つと感じている生徒が少ないという結果でした。この結果から、学校では、現在学習していることが、これからの人生にどのように関わっていくのかを授業の中でも触れながら進めていく必要があると思われます。机上の学問だけにせず、この考え方はどんなことにつながるのか、この表現の仕方はいつ、どのような場で必要とされるのかなど、折に触れて子供たちに気づかせていきます。

【家庭生活に関わること】

- ・すべての生徒が家庭学習時間30分以上であり、2時間以上の生徒の割合も高く、家庭学習が習慣化されている。
- ・朝食を毎日食べるといった基本的な生活習慣がしっかりできている。
 - 家庭の協力もあり、基本的な生活習慣が整っている。落ち着いた学校生活を送っている生徒が多い要因の1つであると考えます。

【生徒自身に関わること】

- ・自己肯定感が高く、自分の長所を積極的に評価し、自分の強みとして理解している生徒が多い。
 - このような生徒の特徴を十分踏まえ、何事にも自信をもって取り組むことのできる自立した生徒の育成をこれからも目指します。
- ・いじめに対する正義感があり、多くの生徒が人の役に立ちたいと考えている生徒が多い。
 - 様々な経験の中で、協力することや優しくすること、他に貢献することの大切さをしっかり学んでいることが分かります。
- ・将来の自分の姿をイメージすることができ、また、地域のために何かしたいという気持ちをもっている生徒が多い。
 - これらの気持ちを大切にして、将来の生き方、職業選択につながる進路学習に努めたい。